

## ガザのゲルニカ イスラエルによる空爆で300人以上が死亡 デモクラシー・ナウ！ 12月29日の特別番組から

翻訳：田中泉

© 2009 デモクラシー・ナウ！ ジャパン

世界中の抗議の声を尻目に、イスラエルはガザ攻撃を続けています。数カ月間におよぶ封鎖によってガザの市民生活を完全に麻痺させた上に加えられたイスラエルの猛攻撃は、1948年以來で最も凄惨なものと言われています。エフド・バラク国防相は「ハマスの全面戦争」を宣言し、ガザ地区へのジャーナリストや一般市民の立ち入りを禁じて、150万人のガザ住民を孤立させています。医療品も食糧も電気も燃料も尽きたいま、ガザはまさに地獄と化しています。

「デモクラシー・ナウ！」では2008年12月29日に、ガザ地区からガザ市のムーサ・エルハッターとラファのフィーダ・キシユタの2人、西岸地区ラマッラーからは大統領候補として出馬したこともある民主派独立系議員ムスタファ・バルグーティ、イスラエルからはテルアビブ在住のハアレッツ紙記者ギデオン・レビ、米国からはエレクトリック・インティファダ共同設立者のアリ・アブニマーと、さまざまな人々を招き、現状分析を聞きました。

そこから見えてくるのは、米国や日本のメディアが伝えている「ガザから発射されるロケット弾に対する正当な自衛権行使」というイスラエルの主張とは、まったく逆の物語です。1時間弱の番組には、歴史的な背景をふまえて現状を包括的に理解する重要な視点が網羅されています。特に、以下の点に注意してゲストたちの証言を読んでください。

- ・ ガザとはどんなところか？
- ・ イスラエル軍は何を攻撃しているのか？
- ・ イスラエルによる封鎖はガザの生活にどんな効果をもたらしたか
- ・ 「過激派ハマスが停戦を破った」？
- ・ このタイミングでイスラエルが軍事攻撃に踏み切った理由は？
- ・ オバマ次期米大統領の姿勢は？
- ・ パレスチナ自治政府アッバース大統領は誰の味方か？
- ・ ハマスのロケット弾攻撃は、この事態を正当化するか？
- ・ パレスチナの人々は今なにを求めているか？

今回のデモクラシー・ナウ！ ジャパン ニュースレター特別号は、世界を揺るがす重大な事態の真実をお伝えするため、緊急に発行されたものです。今号に限り無料配信、転送・転載歓迎です。動画も併せてごらんください。

字幕付き動画はこちらへ <http://democracynow.jp/subomov/20081229-1>

**フアン・ゴンザレス：**世界中に抗議の嵐が広がる中、イスラエルによるガザ空爆は三日目に入りました。イスラエルは地上侵攻にも備えています。ガザの社会機能を麻痺させた数ヶ月来の封鎖につづく今回の攻撃は、イスラエルのパレスチナ人に対する攻撃の中でも、1948年以來最も残虐なものといわれています。最新の情報によれば、2008年12月27日土曜日の朝に始まったガザ地区への空爆で、これまでに310人が死亡し、1400人が負傷。最新の攻撃対象は、ハマスの内務省の建物やイスラム大学などでした。28日夜のジャバリヤ<sup>[注1]</sup>空爆で、一家族の5人が一度に亡くなりました。家族の中で生き残ったイマーン・バルーシさんです。

**イマーン・バルーシ：**私たち7人が寝ていたら、突然壁が体の上に崩れ落ちてきたんです。みんな叫び出しました。私は「もう私たちは今夜死ぬんだから、殉教できるよう祈りましょう」と言いました。

**フアン・ゴンザレス：**イスラエルのエフド・バラク国防相は今日、イスラエルは「ハマスの全面戦争」に入っていると発表しました。ガザ地区の周辺は軍事緩衝地帯と宣言され、150万人の人々が住むガザ地区にジャーナリストや市民が立ち入ることはできなくなりました。地上侵攻が始まる恐れが高まっています。イスラエル首相府のマーク・レグフ報道官は、ガザからイスラエル南部へ発射されるロケット弾に言及し、「南部が鎮まる」まで軍事作戦は続くと述べました。

**マーク・レグフ：**ハマスの軍事機構に対する我々の初期攻撃はうまくいっています。しかし、ガザのハマスの軍事機構がいまだに恐るべき殺傷力を持つことは間違いありません。この軍事作戦はまだ続きますし、市民の巻き添えももっと起こると覚悟しなければなりません。

<sup>1</sup> ガザ回廊の北端に位置し、ジャバリヤ難民キャンプがある。1.4 平米の地域に 10 万人近くの難民がひしめき、世界で最も人口密度の高い地域になっている。

当然ながら、最終目標はわが国南部に平穏をもたらすことです。

**エイミー・グッドマン:** アルジャジーラによれば、パレスチナ側の死者は318人に達しています。一方27日以降ガザから発射されたロケット弾で、イスラエル人2人が死亡しています。アルジャジーラが27日に放映したインタビューの中で、ハマスの政治指導者ハレド・メジャー氏は「ロケット攻撃は続くし、イスラエルに対する自爆攻撃も再開させる」と述べ、パレスチナ人に対し「団結して第3次インティファダに立ち上がるのではないかと亡命先のダマスカスから呼びかけました。

**ハレド・メジャー:** これは歴史的瞬間です。第1次と第2次のインティファダ[注<sup>2</sup>]では、我々は手に手を取って行動しました。我々のあいだの政治的な立場の差異はさておき、いま求められているのは一致団結して来たるインティファダを戦い、ガザだけでなく西岸地区でも抵抗運動を起こすことです。

**エイミー・グッドマン:** しかしパレスチナ自治政府のマハムード・アッパース大統領は28日、イスラエルの攻撃を招いたとハマスを非難しました。

**マハムード・アッパース:** はっきりと言っておきたいのですが、我々はガザのハマスの指導者たちと対話したのです。直接的にも間接的にも、アラブや非アラブの様々な組織を介して、はっきり誠実に話をしました。彼らとは連絡を保っていたのです。我々と彼らの間にどんな問題があったかはもう重要ではありません。彼らに電話して、「どうか停戦の更新を断らないでくれ。停戦を継続させてくれ」と懇願し、今回のような事態を避けようとしたのです。避けられればよかったのに。

**エイミー・グッドマン:** 今日の議論には、たくさんの方々をお招きしています。フロリダ州ジャクソンビルからはアリ・アブニマーさんが参加します。アブニマーさんは「エレクトロニック・インティファダ」<http://electronicintifada.net>の創設者のひとりで、*One Country: A Bold Proposal to End the Israeli-Palestinian Impasse* (『一国家解決 出口のないイスラエル=パレスチナ紛争を終結させる大胆な提案』)の著者です。先日ロンドンのガーディアン紙にWe Have No Words Left (「もう言うべきことばもない」)を寄稿されています。

ガザ市からは元外科医のムーサ・エルハッダートさんをご出演です。人気ブログRaising Yusuf(『ユースフを育てて』)を書くジャーナリストのライラ・エルハッダートさんの父親です。ムーサ・エルハッダートさん、デモクラシー・ナウ！ にようこそ。いまいらっしゃる場所と、現在の状況をお伝えいただけますか？

**ムーサ・エルハッダート:** はい、私はガザ市の中心部にいます。この状況は言葉では言いつくせません。もしこれがホロコーストでないなら、いったいホロコーストとは何なのでしょう。ニュースでは約318人が死亡したといわれていますが、そのほとんどは民間人です。すくなくとも、300人はそうです。また1500人が負傷したといわれていますけれども、その多数は重傷を負っています。病院では必要な人員や設備の多くが欠けています。ガーゼや医薬品すらないのです。何もかも不足しています。医師や看護師たちは休む間もなく動いています。怪我をした人々は治療を受けたくても病院に空きがありません。それに、攻撃で破壊された建物の瓦礫の下には、もっとたくさんの死者が埋まっているに違いありません。

ときおりロケット攻撃の音がきこえてきます。つまり、上空には常に戦闘機が飛んでいるんです。いまこうしてお話している時にも無人ジェット機やF-16だとか、あとは知りませんが戦闘機が上空を飛んでいる音がしています。海からは戦艦が攻撃しています。誰を攻撃しているんでしょう？ ハマスではありません。一般の人々、民間人を攻撃しているのです。市民です……いま私は通りを見えています……ガザの目抜き通りオマール・ムフタル通りに人影はほとんどありません。恐怖を感じていない人などいませんからね。

あなたも先ほど報道されましたが、昨夜、ある家族の女性とその子ども4人の、計5人が自分の家において殺されました。モスクが3つか、4つ破壊されています。モスクは祈りの場所ですよ。もう安全な人などいません、安全な場所などありません。攻撃を受けた建物のすべてが、軍事的に使われてはいませんでした。攻撃が始まった土曜日に死んだ150人だって、公務員でした。戦闘員ではなかったのです。公務員、非戦闘員です。何と云えばよいのか……

**ファン・ゴンザレス:** ムーサ・エルハッダートさん、もうひとつお伺いしたいことがあります。イスラエルがテレビ信号を妨害しようとしているという報告を聞いています。電気はどうなのか、人々ほどの程度情報を入手でき、お互いに連絡しあえるのかを教えてください。

**ムーサ・エルハッダート:** あなたとお話している今も、私の家には電気がありません。2~3時間稼働させられる発電機があるので、それを使ってインターネットやテレビを見えています。電気が使えるのは一日3~4時間ぐらいだけで、調理用のガスもありません。これはガザの一般の人々の話で、私の家には少し残っています。でも一般には一日の4分の3は電気が使えず、調理用のガスもガソリンもない状況です。燃料がない。このところ食料や燃料が入ってくる唯一の道がエジプトに抜けるトンネルだったのですが、そうしたトンネルも昨夜攻撃されました。少なくとも40箇所ほどのトンネルが、破壊されてしまいました。

<sup>2</sup> インティファダはパレスチナ占領地の民衆蜂起。1983年にガザのジャバリヤ難民キャンプから自然発生的に起こった抵抗運動がパレスチナ全土に広がった。1993年にオスロ合意が締結され占領地に自治政府が成立するとインティファダは沈静化した。オスロ和平プロセスは行き詰まり、2000年9月にふたたび抵抗運動が始まった(第2次インティファダ)。

こうしたことの、どれ1つでもハマスに対するものでしょうか？ハマスに対する攻撃などではありません。これは無力な民間人に対する明らかなジェノサイドであり、ホロコーストですよ。民間人は戦闘機も、戦艦も持っていません。イスラエルが言っているロケット弾にしたって、自家製のものです。状況はあまりにひどすぎる。10世紀とか15世紀ではないのですから、世界中の人々が見たり聞いたりできることです。でも誰が行動していますか？何かしている人がいますか？彼らは殺している者と殺されている者が同じだと言っています。強大な軍事大国イスラエルが、ハマスやガザの住民のような貧弱なレベルの抵抗と同等であるかのように……。

**エイミー・グッドマン：** ムーサ・エルハダートさんでした。ラファに住むフリージャーナリストで国際連帯運動(ISM) [注<sup>3</sup>]のガザ地区コーディネーターのフィーダ・キシユタさんも参加なさいます。キシユタさん、ようこそ。ラファで起こっていることを教えて下さい。

**フィーダ・キシユタ：** そうですね、ちょうど今はすべて静まり返っていますが、昨日はラファの国境で大攻撃が行なわれました。国境付近がF-16による11発以上のロケット弾攻撃にさらされました。そこはガザの人々が生きのびるためのものを手に入れる唯一のルートでした。食糧や医薬品などトンネルから持ち込めるものは何でもです。しかし今では、ガザの人々が生きのびるための唯一の供給路も壊されてしまいました。

昨日の朝は、ラファの私の家の近くの薬局が攻撃されました。我が家からたった50メートルしか離れていないところですよ。ラファのその他のふつうの建物がいくつも破壊されています。普通の家族や民間人しかいない場所です。いったいどんな理由でそんな事をするのでしょうか。ムーサさんも言ったように、イスラエルは民間人を攻撃しています。イスラエルが言うようなことは……イスラエルの攻撃は本当にひどい。とうてい信じられないようなことが目の前で起きています。ひどすぎます。ラファでは最大の病院でさえ一度に20人以上の負傷者を扱うことができません。負傷者たちはガザ市に運ばれました。ほとんどの人は家に留まっています。すべて閉ざされています。戦争のようですよ。誰も外には出られません。

**ファン・ゴンザレス：** フィーダ・キシユタさん、エジプトの役割についてお伺いしたいと思います。国境沿いにいるエジプト人が、軍事攻撃を逃れようとするパレスチナ人を阻止しているという報道がありました。そのことについて、そちらで聞いていることをお話しください。

**フィーダ・キシユタ：** 攻撃のことを聞いて、私とISMの友人が数人で何が起きているのか確かめようとエジプト国境に向かいました。到着してみると、パレスチナ人たちは逃げ出そうとしているわけではありませんでした。彼らはエジプトの兵士たちに怒りを示そうとしていたのです。負傷者たちがガザから出てエジプトで治療を受けられるように、なぜ境界の検問所を少しでも開けてくれないのかと。彼らは抗議しようとしただけで、自分たちがエジプトに脱出しようとしていたわけではありません。情報が間違っています。

**エイミー・グッドマン：** ラファとガザ市のゲストとお話しています。今度はイスラエルのハアレッツ紙記者ギデオン・レビさんにテルアビブからお話していただきます。電話がつながっています。レビさんの最新の記事は「隣人いじめがまた始まった」です。

ようこそデモクラシー・ナウ！へ。ムーサ・エルハダートさんやラファのフィーダ・キシユタさんのお話をお聞きになって、テルアビブではどう感じになりますか？今起きていることへのイスラエルの人々の反応を、教えてください。

**ギデオン・レビ：** まず初めに、私はイスラエル人として一連の報道を聞き、凄惨な写真を見ると心が寒くなります。しかし残念ながら私と違い、多くのイスラエル人はかなり無関心です。正当的な理由があると思っているのですよ。イスラエル南部への攻撃というのが、彼らにとっての「正当的な理由」で、イスラエルには何でもする権利があるのだと思っているのです。彼らと違って私はイスラエルがいかなる人道性や倫理性も……いや合法性すら持ちあわせていないと思います。イスラエルが今あそこでやっていることはひどい蛮行で、正当化などまったくできません。

**ファン・ゴンザレス：** ブッシュ政権が終わろうとしており、バラク・オバマ次期大統領の就任は1月20日です。今このタイミングを狙って行動しようという、イスラエル政府の決断があったと思いますか？この種の行動に対して米国政府がこの段階で否定的に対応することはないだろう、という計算があったのでしょうか？

**ギデオン・レビ：** このタイミングについては、ありとあらゆる理由付けができます。イスラエルでは選挙が迫っていますしね。でも思い出していたきたいのは、イスラエルは2年半前にも、よく似た戦争を行なったことです。その時は、ブッシュ大統領はまだ権力の中心でしたし、米国でもイスラエルでも選挙はありませんでした。私が話しているのは第二次レバノン戦争 [注<sup>4</sup>] のことです。いまの状況はもっと複雑です。確かにおっしゃるような計算もあったでしょうが、それが一番の理由ではないと思っています。イスラエルは解決が必要な状況を抱えています。それに対して大きすぎる力を用いて過剰反応しています。解決は必要ですが、こういう類の解決ではありません。

<sup>3</sup> 世界各国の一般市民がパレスチナ占領地で非暴力抵抗運動に参加するよう呼びかけている非政府組織。2001年イスラエルとパレスチナ、欧米の運動家が共同で開始した。

<sup>4</sup> レバノン南部を占領し続けるイスラエルへの抵抗運動から生まれたレバノンのシーア派組織ヒズボラは、2000年によくイスラエル軍を撤退させた。その後も両者のあいだで緊張関係が続いていたが、イスラエルは2006年7月にヒズボラの国境侵犯を理由にレバノン全土に激しい空爆を行い、レバノンの一般市民を中心に1000人を超える死者を出し、インフラを破壊した。

**エイミー・グッドマン:** ギデオン・レビさん、これは2月10日の選挙にどのように関係してくるでしょうか？ 立候補者たちにガザ爆撃はどう影響するのですか？

**ギデオン・レビ:** イスラエルの国内政治でしょうか？

**エイミー・グッドマン:** そうです。カディマ党のツイピ・リブニ外相、労働党のエフード・バラク国防省、リクード党のベンジャミン・ネタニヤフ氏などです。

**ギデオン・レビ:** イスラエルで昨日発表された世論調査では、この2日間で労働党の支持が50%伸びています。なぜかといえば、この作戦の主演として位置づけられているエフード・バラクの政党だからです。ご存知のようにバラクは国防相です。だから彼や彼の党には、この攻撃が有利に働くかもしれません。でも私は、彼が選挙のためだけに軍事作戦を開始したとまでは思いません。心の片隅にはあったでしょうけど。

もし彼の労働党が議席を増やせば、ネタニヤフのリクード党の議席が減ります。カディマの議席は変わらないか、少し増える程度でしょう。でも軍事作戦の結末はわからないので、判断を下すのは早すぎます。今のところはすべて上首尾のようではありますが、どのように終わるのかはまだわかりません。

**エイミー・グッドマン:** 西岸地区のラマッラーから、無所属の立法評議会議員で民主活動家のムスタファ・バルグーティ氏にご出演いただきます。西岸地区は、少なくともガザと同じようには封鎖されていませんが、今回のことをどう思われますか？

**ムスタファ・バルグーティ:** 西岸地区の我々は封鎖されてはいませんが、やはりイスラエルの攻撃にはさらされています。イスラエル軍は昨日ニリン村で、非暴力のデモに参加していた民間人を襲い、1人を殺害、3人に重傷を負わせました。また別の若者が違う村で殺されました。西岸地区ではすでに3人が殺されていますし、死者の数は増えています。

イスラエル側の主張とは違い、イスラエルがガザでやっていることは自衛戦争ではありません。ハマスへの攻撃ではなく、パレスチナのすべての住民に対するものです。我々は1967年以来、先例のない戦争犯罪、大量殺戮を目にしています。子ども30人を含む318人が殺され、少なくとも150人の子どもと40人の女性を含む1400人が負傷しました。ジャバリア難民キャンプで昨日、イスラエルの戦闘機が民家を破壊して家族のうち5人の姉妹を殺害し、母親に致命的な重傷を負わせたと聞いて、私は大きなショックを受けました。こんな大量殺戮は今すぐ止めなければなりません。

イスラエルは自分たちがハマスを攻撃していると主張していますが、実際はパレスチナ人すべてを攻撃しているのです。インフラすべてを攻撃しているのです。大学を破壊しました。5カ所のモスクを破壊しました。病院を破壊しました。至るところで銃撃と破壊をくりかえしています。地上侵攻も近いようですが、そんなことになれば数千人の命が奪われるでしょう。これは大変危険です。そもそも国際社会が共犯者となり、沈黙していなかったら、イスラエルはここまでしてはいなかったでしょう。

重要な点をはっきりさせておきたいのですが、停戦を破ったのはパレスチナ人やハマスではありません。イスラエルが2カ月前から停戦を破っているのです。イスラエルはそこかしこで攻撃をしかけ、パレスチナ側を挑発し続けました。たまりかねて反撃すると、パレスチナ人が停戦を破ったと主張するのです。

もう一点は、ガザは1平方キロメートル当たり4150人が暮らしている、世界で最も人口密度が高い場所だということです。そういう場所に1~2トン級の爆弾を落とすのは、無実の民間人を殺す決意だということに他なりません。つい先ほどイスラエルのツイピ・リブニ外相がパレスチナ人はハマスとガザから離れるべきだと言っているのを聞きましたが、そこを離れて、どこに行けというのでしょうか？ イスラエルが過去2年間海も空も地上も完全にガザを封鎖しているというのに、いったいどこに逃れる場所があるのでしょうか？

イスラエルはけっしてガザの占領をやめてはいません。ガザの領空、領海、周辺の土地を占拠し続けて、人々が医薬品や医療器、燃料や電気を入手するのを阻んでいます。ちょうどガザにいるパレスチナ人と話してどんな状況か聞いたところですが、パンがないと言っていました。ガザにはパンさえもないのです。そんな状態の人々を、イスラエルはいま、このひどい、許しがたいやり方で爆撃しているのです。

世界の人々はこの現実を直視するべきです。前例のない大量殺戮を、イスラエルの将軍や政治家たちが、選挙運動のために利用しているのです。いま一度、パレスチナ人の血が選挙運動のために利用されています。残念なことに、イスラエルでは左派政党でさえ、こんな攻撃を支持しています。彼らは口をそろえてミサイル攻撃が原因だと言うのですが、簡単に聞きたい。この半年間でいったい何人のイスラエル人がミサイルで殺されましたか？ ほぼゼロです。イスラエル側に2人の死者が出たのは、この作戦が始まってからです。

今回のことは平和に結びつくでしょうか？ いいえ、結びつきません。イスラエルに安全をもたらすのでしょうか？ いいえ、逆に西岸地区にインティファダが復活します。占領下のパレスチナ全体に怨念を生んでいます。やめさせなければならぬことです。ブッシュ政権は任期終了前に悪名をとどろかせたいとしか見えませんが、この最悪の米政権が支持を与え、共犯しなかったら、イスラエルもここまでひどく無実の人々を罰し、ガザ地区にここまでの惨劇をもたらすことも、できなかったでしょう。

**エイミー・グッドマン:** バルグーティさん、アラブ各国の政府や、今や同じくハマスを非難しているパレスチナ自治政府の、共犯関係と沈黙について、ご意見を。

**ムスタファ・バルグーティ:** パレスチナ自治政府は非常に難しい立場になっていると思いますよ。この作戦が行われた主な目的のひとつは、アッバース大統領の立場を弱めることです。おかげで彼はもはやパレスチナ人の代表として口をきくことができなくなるでしょう。今やアッバースでさえも、イスラエルとの交渉や治安面の協力を全面停止せざるを得ない強い圧力を受けています。とどのつまりアッバースを選出したのはパレスチナ人であり、イスラエルの右翼過激派ではないからです。彼はハマスを含めたすべての政党による会議の開催を呼びかけたところ。これはこの1年半のあいだ一度もなかったことです。この非人間的で、受け入れがたい大量殺戮に立ち向かうため、パレスチナ人は団結を取り戻す方法を探ろうとしているのです。

**エイミー・グッドマン:** フロリダ州ジャクソンビルから、アリ・アブニマーさんをお呼びします。普段はシカゴ在住のアブニマーさんは、エレクトロニック・インテリファードの創設者の一人です。今の状況、たとえばマフムード・アッバース大統領が、これをもたらしたのはハマスだと言っていることについて、ご意見をお願いします。

**アリ・アブニマー:** まず言っておきたいのは、これほどの悪意と計画性を持った犯罪に匹敵するものは、現代史においてはワルシャワ・ゲットーやゲルニカぐらいしかないと、そしてこれを行なうイスラエルを、ブッシュ政権だけでなく、オバマ次期大統領までもが全面的に支持しているらしいことです。いわゆる国際社会だけでなく、エジプトのホスニ・ムバラク大統領、アフド・アブルゲイト外相をはじめとするアラブ諸国の政府も、共犯関係にあることを認識しなければなりません。ツイピ・リブニ外相がガザに対する脅しを表明したのは、アラブ最大の都市カイロであり、アブルゲイト氏が隣に黙って立っていました。

マフムード・アッバースは傍観者ではありません。パレスチナ自治政府の「大統領」と呼ばれる人物です。2年前の選挙でハマスが勝って以来、アッバースとその取り巻きたちは、イスラエルおよび米国と手を組んで、まず選挙結果を反故にし、次いでガザ地区を封鎖してきました。以前この番組に出演したときに、米国から資金と武器の提供を受けたパレスチナ版コントラが2007年6月にハマス政府を転覆させようとして、逆に追放されたという話をしましたね。今度はこれです。マフムード・アッバースが共犯であることは明白ですし、はっきり指摘しなければなりません。彼にはパレスチナ人に団結を呼びかけるにふさわしい道徳的な権威も他の権限もありません。あちら側に寝返った人間なのです。私は言葉を慎重に選んで言いますが、アッバースはパレスチナ人に戦争をしかけるイスラエルに加担しているのです。

それに、次のことも言わせて下さい。敵国との戦争状態にあるのだというフィクションをイスラエルは作り出し、広めようとしています。イスラエルがしていることは、閉じ込められた人々の虐殺です。今日のヘッドライン・ニュースでも紹介されていましたが、進歩的でリベラルで、反戦派とされる米国下院議長ナンシー・ペロシ議員は、イスラエルの犯罪に全面的な支持を与えました。オバマも側近を通して同じことをしました。この状況は何も変わらないでしょう。国連はよわよわしい声明を出しましたが、それは状況を変えるためというよりは、アリバイ作りをするためのものに過ぎません。

今日、パレスチナ人が求めているのはなんでしょう？きのう「ボイコット、投資撤退、制裁措置のためのパレスチナ国民委員会」は、南アフリカに対する反アパルトヘイト運動をモデルにしたボイコットと投資引揚げ、制裁措置の呼びかけを、北米やヨーロッパをはじめ世界中の市民社会に向けて再度発表しました。これは必要な措置であり、道徳的なことです。私たちの誰もが参加できる非暴力の抵抗運動です。そして、今までになく緊急性を増しています。ワルシャワ・ゲットーやゲルニカなどの20世紀に起きた残虐な事件を振り返って「行動するチャンスはあったのに、我々は沈黙と共犯を選んだ』などと言う暇があったら、今回は同じ轍は踏まないように行動しましょう。

そして責任者をはっきりさせましょう——エフド・バラクは、数ヶ月前からインシュリン、化学療法薬、透析用医療品、その他すべての医療品をガザに供給させない命令を出していますが、それは爆撃機や戦闘機を送り込んでモスクや大学を攻撃する命令と同じほど殺傷力の強い命令です。ガザのイスラム大学は軍事施設ではありません。18000人の学生がいる大学です。学生の60%は女性です。昨夜、イスラエルの軍用機はイスラム大学の女子寮を攻撃しました。これがイスラエルの攻撃している対象です。イスラエルは漁港を攻撃しました。ガザには食料が入ってきません。人々は魚を獲ってなんとかしのいでいますが、イスラエルは彼らが生き延びるための漁船を攻撃しました。これは歴史的な犯罪であり、我々は黙ってはいけません。

それでも「双方に非がある」というナンセンスが、いつまでも繰り返されます。閉じ込められた占領下のガザの住民は、80%が難民で、そのうち75万人は子どもです。世界が見守る中で堂々とこんな犯罪が行われるところが他にありますか？しかも米国の議会では民主党も共和党もそろって賛同の拍手を贈り、下院外交委員会の委員長で民主党のハワード・ベルマン議員が、イスラエルに全面支持を与える恥ずべき声明を出しています。人々はこれに対して立ち上がらなければなりません。手をこまねき、変化が近づいているなどと言っている場合ではありません。変化は我々が創らない限りやってきません。

**エイミー・グッドマン:** ゲストは西岸地区ラマッラーのムスタファ・バルグーティ氏、ガザ市の元医師ムーサ・エルハッダード氏とガザ地区ラファの国際連帯運動のフィーダ・キシユタ氏です。フロリダのスタジオからはアリ・アブニマー氏が参加しています。

アブニマーさん、バラク・オバマ次期大統領は現時点での発言を控えていますね。もちろんオバマ氏は今ハワイで休暇中ですが、顧問のデビッド・アクセルロッド氏がテレビに出ています。「大統領はいちどきに1人だけ、今はブッシュ氏が大統領だ」と、これまでの主張を繰り返しています。コンドリーザ・ライス国務長官から状況報告を受けているのに、オバマ氏は「次期大統領が現段階で深入りするのは逆効果だ」と言います。そればかりか、米国とイスラエルの「特別な関係」を重んじるオバマ氏の立場に触れて、ユダヤ国家の行動への全般的な支持をほめかしています。これはハフィントンポストからの引用です。いかがですか？

**アリ・アブニマー:** 大統領は1人というのは都合がいいですよ、世界中を憤慨させている事態に沈黙を守りたいときにはね。経済危機やイラクやアフガニスタン問題については、大統領はもう1人いるらしいのですが、彼は今回は発言したくないのです。それどころか側近を通じて、イスラエルの行為を支持すると間接的に公表しています。これまで表明してきた立場と同じです。イスラエルがガザを攻撃することも、封鎖することも、2006年にレバノンに戦争をしかけたときも、オバマは一貫して支持を表明してきたのです。イスラエルが安心して残虐行為を続けられるのは、このおかげです。ジュネーブ条約やニュルンベルグ憲章など20世紀に発達した戦争法規をことごとく破っても、イスラエルは平気です。米国がどんな政権の下でも全面的な支持を与えてくれると知っているからです。

だから1月20日の政権交替まで何もしないで待ってはいけません。暦をめくるだけでは何も変わらない。事態を変えるのはボイコットや投資引き揚げや制裁です。人々が立ち上がって、罪が罪として問われるよう求めるべきです。例えばエフワード・バラクやエフワード・オルメルトやツイピ・リブニを国際刑事裁判所の戦犯法廷に引き出して、ガザに住む一般市民の殺戮を指令した責任を問うべきです。変化をもたらすためには、こういうことを要求する運動を組織することが必要です。

**ファン・ゴンザレス:** もう一度バルグーティさんに聞きますが、西岸地区やアラブ諸国の民衆が反応を起こす可能性は？アラブ諸国の政府は今のところ共犯関係にあるようですが、民衆レベルではイスラエルの攻撃が続いた場合、どんな反応が予想されますか？

**ムスタファ・バルグーティ:** 一点だけ明らかにしておきたいことがあります。イスラエルは、アラブ諸国やパレスチナ自治政府の一部が現在の事態に共謀しているのを大いに誇っています。しかし現在ガザや西岸地区で起きていることは、民主主義の解体に他なりません。パレスチナには市民社会があり、私たちのような民主勢力があります。私たちはアラブ世界で最も民主的な選挙を実現させました。そのことは誰もが知っている事実ですし、カーター元大統領も私たちの前回の選挙[注<sup>5</sup>]について、そう報告しています。アラブ諸国の一部がイスラエルに加担するのは、彼らがこうした民主主義の実現を望まず、私たちをつぶしたいからです。

そんな独裁政権との協力を誇りに思うのであれば、イスラエルの民主主義がどの程度のものか判ろうというものです。中東で唯一の民主国家だと主張していますが、それならなぜパレスチナの民主主義を抹殺しようとするのでしょうか？1976年に占領下のパレスチナで初めて地方自治体の選挙が行われた時にも、イスラエルは同じことをしました。住民が選出した代表が気に食わないので、爆弾をしかけたり、追放したり、投獄したりして、1年のうちに一掃してしまいました。前回2006年の自治政府の議会選挙では、選挙直後に45人の議員を投獄しました。そのうちの1人アフメド・サーダト[注<sup>6</sup>]はハマスの党員ではなく、世俗主義の民主的な左派政党の議員です。パレスチナ人組織の書記長というだけで30年の禁固刑を宣告されました。こうした民主主義の破壊にも世界は黙っています。独裁者と手を結んで満足しているというのなら、イスラエルは負け組みなのです。

イスラエルがたれ流しているいくつかの作り話について、ここで確認しておきましょう。イスラエルはハマスへの攻撃だと言い張っていますが、実際にはハマスではなく、パレスチナの住民全体への攻撃です。ガザの占領を解いたという主張も嘘です。占領は終わっていません。今ふたたび占領の形態を変え、侵略によって住民の生活を破壊するつもりなのです。またパレスチナ人が停戦を破ったと主張していますが、それも嘘です。停戦を破ったのはイスラエルです。現段階でも停戦を拒んでいるのはイスラエル国防相のバラクです。彼が停戦の再開を拒んでいます。

これも付け加えておきたいが、イスラエルが攻撃しているのはガザ地区だけではなく、西岸地区にもアパルトヘイトとしか呼べない体制を作りました。かつての南アフリカよりずっとひどいものです。すべての問題の根は、単純な事実であり、武力衝突はその病根の現われにすぎません。根っこにある病とは、イスラエルが41年も続けているパレスチナの軍事占領です。イスラエル政府が占領をやめようとしていないので、つぎつぎと紛争が起こるのです。

<sup>5</sup> 2006年1月に西岸地区とガザで実施されたパレスチナ立法評議会(自治政府の国会にあたるもの)選挙ではハマスが74議席と単独過半数を制し、これまで一貫して多数派だったファタハは第二党に転落した。元米国大統領ジミー・カーターをはじめ各国から多数の選挙監視団が派遣されたが、いずれもこの選挙の公正さを保証している。この結果ハマスのイスマイル・ハニーヤ氏が首相に就任し、一時はファタハとの連立内閣を成立させたが、6月には両者の対立が激しくなり自治政府のマフムード・アッパース大統領はハニーヤ首相を解任してファタハ政権を樹立させた。ハニーヤ首相はこれを認めず、みずからが正当な政府であるとしてガザ地区を基盤に独立して統治を行なっている。

<sup>6</sup> Ahmed Saadat 1954年生まれの政治家。2001年10月にイスラエルによって暗殺されたアブー・アリ・ムスタファの後を継ぎパレスチナの左派政党PFLP(パレスチナ解放人民戦線)の書記長となった。イスラエルは2001年のラハバン・ゼエビ観光暗殺の首謀者として彼に嫌疑をかけたが、当時のアラファート自治政府大統領は彼の引渡しを拒み、2002年以降ジェリコの牢獄に監禁した。しかし2006年3月にイスラエル軍に襲撃されて、アフメド・サーダトは拉致された。以来イスラエルに拘禁されており、2008年12月25日に「非合法のテロリスト組織の代表」であることを理由に30年の刑を宣告された。

**エイミー・グッドマン:** テルアビブのギデオンのレビ氏に聞きましょう。ハアレツ紙に最近こう書きましたね、「至るところ血の海となり、難民の町ガザが犠牲を払う。無益な流血はイスラエル側も降りかかる。この流血はハマスの愚行が招いた自滅的な災難だが、だからといってイスラエルの行き過ぎた対応が正当化されるわけではない」。もっと詳しく話してください。

**ギデオンのレビ:** 確かにイスラエルが自国南部の市民を守るのは正当ですし、何らかの措置を取ることも国民から期待されています。しかしこのように残虐で野蛮な軍事作戦である必要はない。外交努力は始まったばかりでした。このような血を流さなくても新たな停戦合意に至れたはず。たとえ軍事的に対応するにしても、いろいろな段階があると思うのです。ただちにジェット機を飛ばして、無力な市民社会に数百発の爆弾を落とすなんて——今日は5人の姉妹が埋葬されました。ひどい話だ、こんなことを続けてはならない。こんなことは自衛には何の関係もない。報復でさえありません、極端な過剰反応です。2年半前のレバノンとそっくりだ。

**エイミー・グッドマン:** ムーサ・エルハッダードさん、この事態にハマスの責任は？ガザ住民の反応は？リブニ外相は先日こう述べました。「残念ながら、この種の攻撃には多少の一般市民の犠牲はつきものです。しかしイスラエルは攻撃の前にあらゆる手段をつかってガザの市民に警告しました。ハマスがいてと判っている場所からは、離れているように」と。

**ムーサ・エルハッダート:** 「多少」ではありません、死者のほとんどが一般市民です。イスラエルはハマスのロケット弾から自衛する権利があると言いますが、ちょっと考えてみてください。西岸地区はどうなのでしょう？ここからハマスのロケット弾は発射されていますか？もちろん、一発も発射されていません。それなのにヘブロンやナブルスやラマッラーなど西岸地区の各地で、毎日のように住民が殺されています。

いまの状況を説明することは、どういできません。バルグーティ氏が言ったようにハマスの組織は、全世界の監視のもとで民主的に選ばれたパレスチナの政府です。中東で唯一の真に民主的な選挙でした。なぜ世界は、この政府に能力を証明する機会を与えないのでしょうか？もとはロケット弾攻撃をするつもりなどなかったのです。停戦合意を結んだのに、それを破ったのは誰です？イスラエルですよ。ガザは1か月半も封鎖され、医薬品や食料も尽きています。それでもハマスの他組織も、ロケット弾攻撃は控えていました。するとイスラエルは攻撃を続け、3週間で23人を殺しました。これでどうどうハマスの怒り、停戦の延長を断りました。無意味だからです。

**フアン・ゴンザレス:** ラファのフィーダ・キシユタさん、占領と封鎖が続くガザで、あなたがたガザの住民はこの途方もない困難にどのように対処し、日々を生き抜いているのですか？

**フィーダ・キシユタ:** 占領はパレスチナ人全般に多くの問題を引き起こしています。家族を失っていない世帯などガザには1つもありません。わたしたちは問題が起こるのに慣れっこになりました。わたしも2004年に家を失いましたが、なんとか家を立て直し、生きのびています。でも誰もが新しい家を持てるわけではありませんし、食事のままならない家庭もあります。

パレスチナ人は全力を尽くしていますが、今回のようなイスラエルの攻撃に遭うと——これはイスラエルがガザの住民にしかけた戦争です。許しがたい、驚くべき蛮行です。ジェノサイドです。世界中がイスラエルに、「やめろ、もうたくさんだ」と言うべきです。「住民が選んだ政府を受け入れるべきだ」と。

ガザの人々は、何があってもここで生き続けます。希望を捨てず、未来と家族のため闘いつづけます。家が壊され、娘や息子が殺されても、この世の終わりではありません。せいっぱい生き続けます。でもイスラエルは、日々刻々と、たえ間なくわたしたちの希望を潰そうとします。一般のパレスチナ人が彼らに何をしたのでしょうか。わたしたちは、なんとか生活をつづけようとしています。何があっても、わたしたちは生活を続けていきます。

**エイミー・グッドマン:** アブニマーさん、次のステップは？イスラエルは6500人の兵士を招集し、地上侵攻の準備中です。ハマスのこれに責任があると思いますか？ハマスの今すべき事は？

**アリ・アブニマー:** ロケット弾を発射していなかったらどう違っていたというのです？そんなものはイスラエルのプロパガンダです。アッバース大統領もそれに同調している。西岸地区から1発でもロケットが発射されましたか？それでも西岸は常に攻撃され、住民が殺されているのです。この番組でも報じたように、ユダヤ人の入植者たちが先住民を大量虐殺しています。世界が見守る中で堂々と起こっているのです。そして入植地が拡大し続ける。アッバースはイスラエルに降伏してしまい、彼の治安部隊は米国に訓練され米国の武器を与えられて、西岸の抵抗を弾圧しています。それでも西岸地区の住民は誰ひとり、イスラエルの暴力を免れない。

イスラエルが自衛する権利というが、いったい誰に対して？世界最大の牢獄に閉じ込められた150万人の、飢えた難民に対してですか？パレスチナ人にも自衛権があるのでは？どうしろと言うのです？パレスチナ人を責める人に聞きたい。抵抗は許されない——

**エイミー・グッドマン:** ごめんなさい、時間がきました。ご出演の皆さんありがとうございました。

## Democracy Now!とは？

「デモクラシー・ナウ！（Democracy Now!）」は北米を中心に世界 740 局近くで放送されている非営利の独立系ニュース番組です。大資本による「マスメディア」とは異なり、各種コミュニティ・ラジオ局や衛星放送、ケーブルのパブリック・アクセス TV チャンネル、インターネットなど、さまざまな形態の非営利の公共放送が協力した全国配信ネットワークのさきがけであり、最大のものであります。番組の司会を務めるのは、ジャーナリストとして数々の賞を受賞しているエイミー・グッドマン (Amy Goodman) とフアン・ゴンザレス (Juan Gonzalez) です。

最大の特徴は「戦争と平和レポート」と題した「反戦ニュース」です。米国政府の外交政策の影響を直接的にこうむる世界各地の人々の声や、フリーランス国際ジャーナリストの報告、草の根運動のリーダーや平和活動家、アーティスト、学術関係者や評論家など、企業のスポンサリングを受ける米国メディアではほとんど報道されることのない人々の主張や視点を視聴者に紹介しています。

また、本物の討論も提供します。大きく意見を異にする人たち、たとえばホワイトハウスや国防総省の高官と、草の根運動の活動家・・・ジャーナリストであるエイミーやフアンが本質を問う鋭いやりとりも「ウォー & ピース・レポート」の魅力です。

デモクラシー・ナウ！ ジャパンは、この Democracy Now! の番組内容を日本語でお伝えするため、2007 年春から活動を開始しました。日本語字幕付きの動画をサイトでご紹介するほか、DVD やニュースレター、メルマガの発行も行っています。ストリーミングの一部はデモクラシー・ナウ！ ジャパンが素材を提供する朝日ニュースターの番組を通じて衛星とケーブルでも放送していますが、ノーカット版はこちらのサイトをご覧ください → <http://democracynow.jp/movie>

編集 中野真紀子  
制作 デモクラシー・ナウ！ ジャパン  
© 2008 デモクラシー・ナウ！ ジャパン  
お問い合わせ [office@democracynow.jp](mailto:office@democracynow.jp)

ニュースレター購読のお申し込みはこちらへ: <http://democracynow.jp/newsletter>